

国立国語研究所学術情報リポジトリ

概要

雑誌名	青森県むつ方言調査報告書：日本の消滅危機言語・方言の記録とドキュメンテーションの作成：方言の記録と継承による地域文化の再構築
ページ	1-5
発行年	2020-03-20
URL	http://doi.org/10.15084/00002995

概要

1 目的

本報告書は、国立国語研究所が2018年8月に青森県むつ市でおこなった調査の結果を報告するものである。本調査は、国立国語研究所における「日本の消滅危機言語・方言の記録とドキュメンテーションの作成」（機関拠点型基幹研究プロジェクト）および「方言の記録と継承による地域文化の再構築」（人間文化研究機構・広領域連携型基幹研究プロジェクト「日本列島における地域社会変貌・災害からの地域文化の再構築」）という2つのプロジェクトの共同研究として実施された。それぞれのプロジェクトの目的は以下のとおりである（国立国語研究所のホームページより）。

「日本の消滅危機言語・方言の記録とドキュメンテーションの作成」

いま、世界中のマイナー言語（規模の小さな言語）が消滅の危機に瀕しています。現在、6,000から7,000ある世界の言語のうち、半数がこの100年のうちに確実に消滅し、最悪の場合、10分の1、20分の1にまで減ると言われています。その背景には、人口の都市集中化により周辺地域の人口が減少してしまったこと、社会的・経済的理由によりマイナー言語を使っていた人々がその言語の使用をやめてしまったこと、災害や紛争により人々が生まれた土地を離れなければならなくなったことなどの状況があります。

マイナー言語の消滅に関しては、次のような意見もあります。言語の消滅は社会変化の結果であってしかたがない。あるいはもっと積極的に、言語は統一された方が便利だ。危機言語を守る必要はない。

しかし、そもそも、なぜ、言語が多様になったのか考えてみて下さい。おそらく、各地の言語は地域の自然や人々の生活、ものの考え方などに基づいて、長い時間をかけて形成されていったのだと思われます。それらが消滅するということは、長い歴史の中で醸成された人類の智慧が失われてしまうことを意味します。生物の多様性が地球を豊かにしているのと同じように、言語の多様性は人類を豊かにしているのです。

このような状況に警鐘を鳴らしたのが、2009年のユネスコの「消滅危機言語」の発表です。2,500の消滅危機言語のリストの中には、日本で話されている8つの言語—アイヌ語、八丈語、奄美語、国頭語、沖縄語、宮古語、八重山語、与那国語—が含まれています。しかし、消滅が危惧されるのはこれだけではありません。日本各地の伝統的な方言もまた、消滅の危機にあります。これらを記録し、その価値を訴え、継承活動を支援することがこのプロジェクトの

目的です。

「方言の記録と継承による地域文化の再構築」

地域社会の変貌により、地域の貴重な文化資源である方言が急速に衰退しつつある。本研究では、自治体や各地の大学・研究者と連携して地域の方言の記録や方言の継承活動を行うことにより、方言を主軸とする地域文化の再構築の可能性と方言のもつ文化的意義について研究を行う。

国立国語研究所では、2010 年から奄美沖縄地方、八丈島、島根県出雲、宮崎県椎葉、島根県隠岐の島、石川県白峰、愛知県一宮市（旧木曾川町地域）などで合同調査をおこなってきた。今回のむつ市調査は東北地方における初の合同調査である。

2 調査地点について

本調査は青森県むつ市でおこなわれた。むつ市は、本州の最北端、青森県北東部の下北半島に位置する（位置については地図 1・2 も参照）。東に東通村、南に横浜町、そして北・西に大間町・風間浦村・佐井村の 1 町 2 村が接している。2020 年 1 月現在の人口は 56,790 名である（むつ市ホームページ¹より）。

むつ市は南北に約 35 km、東西に約 55 km に広がっており、その面積は約 864 km²である。これは青森県全域の約 9 %にあたる。市の中央部には釜臥山（標高 879 m）を主峰とする恐山山地が連なっている。

¹ <https://www.city.mutsu.lg.jp/>（閲覧日：2020/2/7）



地図1 青森県むつ市の位置（日本全図）



地図2 むつ市の位置（青森県）

3 調査について

調査は2018年8月30日（木）と31日（金）に曙町集会所でおこなわれた。調査内容は以下のとおりである。

調査内容： 文法項目

- 格・情報構造
- 疑問詞
- アスペクト・テンス
- ヴォイス
- 文タイプ
- 待遇
- 形容表現・名詞述語

基礎語彙・民俗語彙

用言の活用

以下の方々が我々に方言を教えてくださいました。年齢は調査当時である。なお、ここにお名前を掲載していない方々からも方言を教えてくださいました。みなさまに深くお礼申し上げます。

石田元司さん（1944年生，74歳）

大久保三郎さん（1937年生，81歳）

大久保範子さん（1940年生，78歳）

折館博さん（1937年生，81歳）

川村丈夫さん（1944年生，74歳）

佐々木守也さん（1945年生，74歳）

瀬川誓子さん（1946年生，72歳）

高橋令子さん（1948年生，70歳）

高森昇さん（1943年生，75歳）

奈良勝代さん（1945年生，73歳）

奈良末子さん（1940年生，78歳）

成田幸代さん（1951年生，67歳）

西谷良男さん（1950年生，68歳）

三上眞知子さん（1953年生，65歳）

門前操さん（1932年生，86歳）

調査者は以下のとおりである。所属は調査当時のものである。

木部暢子，大槻知世，セリック・ケナン，中澤光平，山田真寛

（以上，国立国語研究所）

青井隼人（東京外国語大学アジアアフリカ言語文化研究所／国立国語研究所）

岩崎真梨子（八戸工業大学），占部由子（九州大学），金田章宏（千葉大学）

狩俣繁久（琉球大学），川瀬卓（弘前大学），小池淳一（国立歴史民俗博物館）

カルリノ・サルバトーレ（一橋大学／国立国語研究所），中川奈津子（千葉大学）

橋本文子（東京家政学院大学），林由華（日本学術振興会／国立国語研究所）

松倉昂平（日本学術振興会／東京大学），ローレンス・ウエイン（オークランド大学）

また以下に挙げる学生が公募により集められ，調査に参加した。

工藤紅音，鹿内亜美，山上紗季，張瑩（以上，弘前大学学生）

郭田夫，高橋新（以上，東京外国語大学），小田立樹（大阪大学）

三宅俊浩（日本学術振興会／名古屋大学），若松弘子（筑波大学）

謝辞

調査にご協力くださいました方々に心よりお礼申し上げます。またむつ市役所企画制作部市民連携課の橋本佳奈さまには，調査にご協力いただける話者の方々のご紹介から調査のための場所のご紹介まで，大変お世話になりました。